

土佐清水市地域公共交通協議会 平成23年度第2回総会 会議録（要約）

日 時：平成24年2月22日（水） 13時00分～14時02分

場 所：市役所2階 第1会議室

出席者：【委員】土佐清水市長 杉村章生、足摺交通ハイヤー代表取締役社長 代理田村和守、竜串見残観光ハイヤー代表取締役 西村公一、高知西南交通(株)代表取締役社長 小松邦彦、高知県幡多土木事務所土佐清水事務所長 近澤俊明、土佐清水市まちづくり対策課長 木下司、清水警察署長代理 松田一道交通課長、高知県公共交通課長代理 宗光広展主幹、高知県幡多土木事務所土佐清水事務所工務課長 笹岡吉市、土佐清水商工会議所会頭代理 藤井敏郎専務、土佐清水市企画広報室長 山田順行、土佐清水市観光課長 酒井紳三、土佐清水市水産商工課長 坂本和也、高知県地域づくり支援課支援員 岡和生（委員14名）

【幹事】高知西南交通(株) 岡本正雄総務部長、土佐清水市総務課長 磯脇堂三（幹事2名）

事務局：企画広報室長補佐 岡田敦浩、企画係長 横山英幸

会議次第：1. 開会

2. 市長（会長）挨拶

3. 議題

(1) 平成23年度計画事業実施状況及び見込みについて

(2) 協議会規約等の一部改正について

(3) 平成24年度計画事業について

(4) 地域内移動システム構築事業について

(5) その他

4. 閉会

会議概要（要約）

1. 開 会

（省略）

2. 市長（会長）あいさつ

（省略）

3. 議 題

(1) 平成23年度計画事業実施状況及び見込みについて

（事務局岡田より資料P1～4について報告説明）

○総会・幹事会開催状況

○タクシー割引助成事業（補助対象外事業：市単独事業）

公共交通空白地域（4地区）で地域から国道幹線バス停までのフィーダー輸送として、23年度より市単事業として実施している。タクシー代の2/3を助成。対象者は4地区で85名で登録者はこのうち33名。地区により増減があるが全体ではおおむね前年並みで推移している。

○高齢者運転免許返納支援事業（補助対象外事業：市単独事業）

平成17年度より土佐清水市高齢者交通安全推進協議会が免許を返納された高齢者に、返納時に2000円分の商品券の交付とか、西南交通さんの協力で免許返納サポート定期やハイヤー運賃の10%割引、サポート店の商品の10%割引というような制度を実施している。22年度よりこれに上乗せをして市でタクシーの利用券4800円分、免許返納サポート店で商品券3600円分、計8400円分を上乗せする事業を実施している。事業者は、タクシー4事業者、返納サポート店38店舗（中央商店街15店舗、理容所23店舗）、計42事業所が協力いただいている。

この制度のおかげか、全国的にも本市は返納率が群を抜いて高く、高齢者の交通事故の防止にも大

きく寄与している。

23年度当初より15名増加し、1月末現在で登録者は76名で、助成額も12%増加している。

○市役所職員によるノーカーデーの実施について

市役所の職員が率先して、バスの利用を進めていこうと意気込みで平成22年4月から毎月20日をノーカーデーとして通勤にバスを利用する取組みを実施している。

マンネリ・固定化の傾向にあり、本年度は利用人数は、昨年18.5人/月から14.75人/月。

○平成22年度通勤通学帰宅便に係る事業費の追加支払いについて

平成22年度に国庫補助対象事業として実施した通勤通学帰宅便実証運行実施額が、実績報告時とバス事業決算時のタイムラグがあったため107,227円増額となり、H23年度会計において予備費に事業費の剰余見込みを加え高知西南交通に支払いを行った。

○収支決算見込み

歳入837,208円、歳出768,040円で69,168円次年度繰越見込み。

(議長)

平成23年度計画事業実施状況及び見込みについて意見・質問なにか。

(なし)

(2) 協議会規約等の一部改正について

(事務局岡田より資料P5~9について報告説明)

- ・24年4月からの市の組織機構の変更及び警察署の統合に伴う委員等の構成メンバーの整理変更
- ・市内公共交通体系の再編検討を協議事項に追加

(酒井委員)

今まで水産商工課が委員・幹事になっていたが、H24からの分に新しく出来る産業振興課は入れてないがなぜか。

(山田室長)

幹事会の方に必要な部署・団体はその都度参加していただくように対応したい。

(岡本幹事)

西南交通の幹事であるが運輸部長が担当することになったので次回からそちらへお願いする。

(事務局)

変更するようする。

(議長)

そのほか意見・質問なにか。

(なし)

※会議終了後、警察署松田交通課長より「公安委員会ということであれば清水警察庁舎長ではなく、中村警察署長が委員ということになる。会議の方へは代理として清水警察庁舎長が出席するようにはなろう」との連絡あり。

(3) 平成24年度計画事業について

(事務局岡田より資料P10~14について説明)

○総会幹事会

法定協議会であり、協議会自体は存続をさせていきたいと考えている。委員・幹事はこの3月で任期となるので4月に再度委嘱をし、決算・監査終了後早い機会にH24年度当初の会を開きたい。

○タクシー助成、高齢者免許返納支援事業は継続事業として協議会事業ということで、続けていく予定。

○24年度予算案

歳出は運営費として6万円、内訳は会議費5万円、事務費1万円。事業費は免許の返納支援、空白地域のタクシー助制882,000円。予備費1万円。合計952,000円。

歳入は負担金882,000円、これは全額市費の負担で市の24年度当初予算に計上している。補助金・負担金0円、諸収入で23年よりの繰越金7万円を計上し、歳入歳出952,000円。

(議長)

意見・質問ないか。

(なし)

○市役所職員によるノーカーデーの実施について

継続して実施する。マンネリ・固定化の傾向解消に務め利用者の増加を図る。

○地域内移動システム構築事業について

(事務局横山より資料P13~14について説明)

本市の公共交通体系の問題点・課題点として、1点目として過疎高齢化の進行による限界集落の増加、公共交通空白地域の移動手段を有しない高齢者等の交通弱者の生活格差の解消が大きな点。2点目として廃止路線バス・統廃合に伴う保育所、小中学校の送迎バス運行に年間6千万を要しており、今後も中学校・小学校の統合を目指しており益々経費の増加が見込まれる。

この現状を解消するため、保育所・小中学校のスクールバスの空き時間を活用した有効性の高い効率的な交通体系の確立を目指す。

H24年度は県補助金を活用しニーズ調査とシステム構築を行う。コーディネイト役として市内のNP法人(ノアーズアーク)に参加してもらい、交通事業者・社協・医療機関・地区長・量販店・小中学校・保育所などにも加わってもらった「誰でもお出かけ委員会」で合議により地域のニーズに適した公共交通体系の構築を目指す。事業の実施はH25年度からとなる。

○無医地区の通院支援事業の展開(新規)

下ノ加江、三崎、下川口の3地区を対象に、市の園児・生徒輸送用マイクロバスの空時間を活用し、各地区週1回程度の通院バスを運行する。(H24のみ)

(田村委員)

無医地区の輸送であるが、現に下ノ加江地区の方でタクシーを利用している方がいるが、しかし市が無料移送をするようになればお客を奪われる懸念があるが・・・。

(山田室長)

安田医院の休診により緊急避難的な措置として清医会が実施してきたものであるが、対象者は安田医院にかかっていた方のみを対象に予約制でやってこられたが、これからは市がやるのでその方だけではなくなる。しかし事業者をまだ決定しているわけではなく、下ノ加江地区は足摺交通、三崎・下川口地区は立串・見残観光ということも可能。民間事業者を圧迫しない方法を検討しやりたい。

(田村委員)

我々の参入も可能ということだが、事業開始が4月からということで中々人員の手配が困難。半年、1年前から声かけをしておいてもらわないと雇用面からして対応困難だ。

(山田室長)

この事業はH24年度のみで、実証的な運行を考えている。利用状況によっては途中で運行中止も視野にいれてやっていく予定である。もう1つの地域内移動システム構築の部分でシステム構築には当初から交通事業者に参加していただいて進めていくので、そちらで一緒に考えていただけたらどうか。

(田村委員)

結局は民間の参入はお手上げということなのか。

(山田室長)

この無医地区通院支援事業は、民間が参入して経費をペイできるニーズがあるかどうか解らない状況だ。清医会の実施実績をみると1.55人/1便という状況であり今後ニーズがどうなるかは解らない。1.5人運ぶのに事業者が人を雇ってくれて、その経費を市が払えるかは疑問である。

(田村委員)

我々の経営を圧迫されるという懸念がぬぐえない。

(山田室長)

下ノ加江から清水までタクシーで通院できる方というのは一定経済的にも余裕がある方ではないか。今回はそういう方法が困難な方を対象としている。民間事業者を圧迫しない方法を検討しやりたい。

(田村委員)

今空白地域でやっているタクシー利用に対する助成事業を拡大してやる方法は考えられないか。

(山田室長)

24年度に2つの事業を予定している。今の意見についてはP14の検討の中でスクールバス、タクシーの利用も含めてデマンド式及び定時運行式どうゆう形態運行が望ましいのかを考えていきたい。タクシー・バス全部ひっくるめて見直しをしましょうと。具体的には今から議論していくものなのでどうするというのはまだ決まってない。無医地区の件については緊急避難的な単年度限りの事業として行う。ただ全体の公共交通体系の再編については、交通事業者・医療関係者も含めて24年度1年かけて皆さんで論議・見直しをしてさらに利便性が高まるような方向で検討をしましょうということである。

(岡本委員)

西南交通は廃止路線として清水～窪津～足摺岬を運行しているが、この地域内移動システムはその部分も含めて検討していくのか。

(山田室長)

そういうことだ。

(議長)

H24年度は無駄のない効率的なシステムを築くための検討を行いH25年度より実施する。また無医地区対策はあくまでH24年度限りの緊急避難的な対策として実施するということでご理解賜りたい。他に意見・質問ないか。

(なし)

(5) その他

(事務局 岡田)

24年度総会について、23年度の収入・支払が確定し、監査員に監査を受け早い機会に開催させていただきたいので、よろしくお願いします。

(市長)

その他でなにかないか？

(なし)

以上でこの会を閉会したい。ありがとうございました。

～ 14:02 閉会 ～